
ふこうのあくま

森永

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ふこうのあくま

【Nコード】

N0718G

【作者名】

森永

【あらすじ】

「どんなねがいもひとつだけかなえてあげよう」——そんなあくまのさそいにつて、ふこうになる人びと。ある日、ひとりのおとこに会いました。あくまはいつものようにとりひきをもちかけます。あくまのさそいにおとこは……

あくまがいました。

まっくろなつばさに、いじのわるそうなかお。

おしりのさきから、とんがったくろいしっぱがひゅるりと
のびている、

そんなあくまがいました。

あくまは人を困らせるのが大すきでした。

なんたってあくまです。

人を苦しめたり、

悲しめたり、

落ちぶれさせたりするのが大すきでした。

人をふこうにすること

それがあくまのしあわせでした。

あくまはとってもたいくつでした。

「なにか、おもしろいことはないかなあ・・・」

たいくつすぎてあくびばかりが出てくるのです。

ひまでひまでしかたがありません。

「そうだっ！」

ある日、あくまは思いつきました。

「人げんがたくさんいるところへ行こう！」

それはとてもすばらしい思いつきのように思いました。

なんたつてあくまでですから、
人げんであそぶことが大すきです。
人げんを困らせたり、泣かせたり、
苦しませたり、落ちぶれさせたりすれば
きつとこのたいくつだつて、
吹きとぶにちがいありません。
そうと決まれば
人げんのせかいにいくじゅんびをしなくてはなりません。
あくまはいそいそと出かけていきました。

* * * *

「さあて、どんな人げんをふこうにおとしめようか」
あくまは、くろいしっぽをふりふりふつてなやみます。
なんたつてあくまでです。
人をふこうにすることがしあわせなあくまでです。
これからふこうにする人げんを思いうかべるだけで
わくわくしてしかたがありません。
あくまはイヒヒとわらいながら、
まっくろなつばさをバサリとひろげて
ふこうにする人げんをさがしにいきました。

「おお！あの人げんにしよう！」
あくまはひとりのおとこに目をつけました。

あくまがさいしょに出会ったのは、大金もちのハンス。

でつぶり太ったおなかに、たつぶりしたフサフサのおひげ。
からだじゅうのあちこちにいろんな大きい宝石をつけて
たくさんめしつかいをつれていました。

あくまはハンスにちかづきます。

「おまえはだれだ？」

「おれはあくまだ」

「あくまがいつたいなんのようだ」

「とりひきだ、とりひきをしよう」

「ふむ、いいだろう。でもいつたいどうすればいいんだ？」

「なあに、かんたんさ！ねがいごとをひとつ言えばいい」

「ねがいごと？」

「そうだ。どんなねがいもひとつだけかなえてあげよう」

「ほんとうか？それならここにつかえきれないほどの金をも

つてこい！」

「おやすいごようだ」

つぎのしゅんかん、

ハンスはおどろきました。

なぜってまわりはたくさんのお金でいっぱいになっていた
のですから！

「やったぞ！これでわしはせかいいちの金もちだ！」

ハンスは大よろこびです。

「ありがとう、ありがとうよ！」

ハンスはあくまにおれいをいいました。

ところが・・・

「ハンスはどこだ！」

「ハンスを出せ！」

「ハンスめ！出てこーい！」

つぎの日のあさ、ハンスが目をさますと
なにやらおやしきの外で人びとがさわいでいます。
どうしたんだろう？

ハンスはふしぎに思ってドアをあけたとたん・・・

「わたしのお金をかえして！」

「おれのお金をかえせ！」

「どろぼー！」

「どろぼー！」

村の人たちがなぜかカンカンにおこって
じぶんのことをどろぼうあつかいしていました。
ハンスはびっくり。
なんのことやらわかりません。

とりあえず目のまえにいた人におはなしをきいてみると
きのうあくまにもらったお金は、
ここにいたくさんの人たちのお金だったということです。

ハンスはひやあせをかいで、あわててみんなにせつめいし

ます。

「ちがう！これはあくまのせいなんだ！」

もちろん、だれもしんじてくれません。

「どろぼー！」

「どろぼー！」

「ハンスのどろぼー！」

おこった村人たちは、ハンスのはなしなんてきいてくれないのです。

かわいそうなハンス。

ついにろうやに入れられてしまいました。

「あくまとりひきなんかするんじゃない」

ハンスはひとり、ろうやのなかでおいおいと泣きました。けれども、きづいたときにはもうおそかったのです。

それをおいところで見っていたあくまは

おかしくておかしくてケラケラとわらいました。

「あーおもしろかった！」

まんぞくそうにうなづいたあと

あくまはつぎの人げんをさがしにでかけていきました。

「おお！こんどはあいつにしよう！」

あくまは、ひとりのおとこの子に目をつけました。

あくまがつぎに出会ったのは、まずしいおとこの子ピータ

！。

ボロボロのようふくに、がりがりのからだ。
かれこれ3日もなにもたべていないのです。

おなかの虫はいつこうになりやんでくれません。

「ああ、いちどでいいからおなかいつぱいたべてみたいなあ・

・・」

びんぼうなピーターはお金もちの人がうらやましくてしか
たありませんでした。

あくまはピーターにちかづきました。

「おまえはだれだ？」

「おれはあくまだ」

「あくまがいつたいなんのようだ」

「とりひきだ、とりひきをしよう」

「ふーん……わかった、いいよ。でもいつたいどうすればいい
んだい？」

「なあに、かんたんさ！ねがいごとをひとつ言えばいい」

「ねがいごと？」

「そうさ！どんなねがいもひとつだけかなえてあげよう」

「ほんとうかい？それならぼくを大金もちにしてくれ！」

「おやすいごようだ」

つぎのしゅんかん、

ピーターはとても身なりのいい少年にかわっていました。

あなのあいていたようふくはしんぴんのようにピカピカで
あかだらけだったからだも、せっけんであらったようにキ
レイになっています。

おどろいたピーターはあわてていえにもどってみました。
そこでまたびっくり！

すんでいたいえもまるでおしろのように大きくなっていたのです！

「やったぞ！これだけでも大金もちだ！」

ピーターは大よろこび。

「ありがとう、ほんとうにありがとう！」

ピーターはあくまにおれいをいいました。

ところが・・・

「ピーター、ちょっとお金をかしてくれないか？」

「ピーター、これを買ってみないかい？」

「ピーター、いいはなしがあるんだけど」

「ピーター、こうすればもっとたくさんお金が手にはいるよ」

ピーターがお金もちになったとたん

たくさん人がピーターのところへおとずれるようになりま

した。

みんな、お金のことしか口にだしません。

ピーターはふしぎに思いましたが

いつきに大金もちになったせいで、とくにふかくかんがえ

ずに

みんなの言うことにきまえよくうなづきます。

あんなにたくさんあったお金は、

いつのまにかみるみる少なくなっていき...

きがつけば、お金はすっかりなくなってしまっていたので

す。

のこったのはだまされてたまったしゃっきんの山。

大金もちどころかびんぼうのころよりも苦しくなってしまう

いました。

キレイになったようふくも
おしろのように大きかったいえも
たくさんあったたべものも
みーんなとりあげられてしまいました。
かわいそうなピーター。

「あくまととりひきなんてするんじゃないかった」

ピーターはひとり、空になったきんこのよこでおいおいと
泣きました。

けれども、きづいたときにはもうおそかったのです。

それをおいところで見えていたあくまは
おかしくておかしくてケラケラとわらいました。

「あーおもしろかった！」

まんぞくそうにうなづいたあと
あくまはつぎの人げんをさがしにでかけていきました。

「おお！こんどはあいつにしよう！」

あくまは、ひとりのおんなの子に目をつけました。

あくまが三ばんめに出会ったのは人気もののマリー。
村いちばんの気だてよしとひょうばんです。

いつもにこにことしていてかわいいと

おんなの子にもおとこの子にも人気ものです。

けれどもマリーはいつも少しだけふあんでした。

だって村のみんなはやさしいけれど、

いつだってかけられることははいっしょなのです。

「かわいいマリー」

「いい子だねマリー」

「やさしいねマリー」

じぶんがどんなふうに思われてるのか、しりたくてしかた
ありません。

あくまはマリーにちかづきました。

「あなたはだあれ？」

「おれはあくまさ」

「あくまがいつたい、わたしにどんなごよう？」

「とりひきだ、とりひきをしよう」

「とりひき？いいわよ。でもなにをすればいいのかしら」

「なあに、かんたんさ！ねがいごとをひとつ言えばいい！」

「ねがいごと？」

「そうさ！どんなねがいもひとつだけかなえてあげよう」

「ほんとう？それならわたしが村のみんなにどう思われてる

かをしりたいわ」

「おやすいごようだ」

そのしゅんかん、

いつきにあたりがさがしくなりました。

マリーはきゆうにうるさくなったことをふしぎにおもって
まわりを見回してみましたが

いつものどかなふうけいがあるだけです。

「もしかして・・・このこえは、むらのみんなのこえ？」

こえにしゅうちゅうしてみると、

きいたことのあるこえばかりです。

ジョンにガーネットにトマスにビートのこえまできこえま

す！

「すごいわ！これで人の心をしることができるのね！」

マリーは大よろこび。

「ありがとう、あなたのおかげだわ！」

マリーはあくまにおれいをいいました。

ところが・・・

『マリーってちょっとかわいいからってえらそうよね』

『マリーっていい子すぎてあんまりすぎじゃないな』

『マリーってどんな人にもいいかおするのよね』

『マリーも少しくらいわるぐちにつき合ってくればいいの

に』

たまに村のどこかからきこえてくるこえ。

それはマリーが思いもしなかったこえでした。

しかもそのこえは

ジョンやガーネットやトマス、ビートなどのともだちのこ

えだったのです。

ひどいわ！ともだちだとおもってたのに！

わたしは人にすかれようと思つてがんばつてきただけなのに！

マリーは悲しくて悲しくて、

もう村人にしんせつにすることをできなくなりました。

きゆうにかわつてしまったマリーに村の人びとはとまどう

ばかり。

すると、心のこえはどんどんマリーにとってひどいものに

かわり、

ついにマリーは人をしんじることができなくなつてしまひ

ました。

「あくまととりひきなんてするんじゃないかった」

マリーはひとり、へやにこもつておいおい泣きました。

けれども、きづいたときにはもうおそかったのです。

それをとおいとこでみていたあくまは

おかしくておかしくてゲラゲラとわらいました。

「あーおもしろかった！」

まんぞくそうにうなづいたあと

あくまはつぎの人げんをさがしにでかけていきました。

4ばんめに出会ったのはきらわれもののバディ。

バディは村にひとりもとだちがいませんでした。

なぜならバディはいじわるをするからです。

でも、バディはじぶんはわるくないとおもっていました。

だって村のこどもたちがバディをばかにしてくるのです。

かわいくないだの、せいかがわるいだの、ともだちがい
ないだの……。

バディはかげでそういうわれてることがくやしき思っていました。

じぶんをばかにする人にいじわるがしたくてたまりません。
「ばかにされたしかえしに、いじわるをしてなにがわるいの
？」

バディはわるくないとしんじていました。

あくまはバディにちかづきます。

「あんただあれ？」

「おれはあくまさ」

「あくまがいったい、わたしになんのようなの？」

「とりひきだ、とりひきをしよう」

「とりひき？ふーん、してやってもいいけど、なにをすれば
いいのよ」

「なあに、かんたんさ！ねがいごとをひとつ言えばいい！」

「ねがいごと？」

「そうさ！どんなねがいもひとつだけかなえてあげよう」

「ほんとう？それならたにんの思っていることがのぞけるよう
になりたいわ」

「おやすいごようだ」

そのしゅんかん、

バディの耳には村じゅうの心のこえがきこえてきました。
そのなかにバディのだいきらいなこえがありました。

このこえは、バレッタ。

このこえは、ミーナ。

いつもバディのわるぐちをいつている子どもたちのこえで

す。

「しめたわ！これではかにしたやつに十分しかえしできる！」
バディは大よろこび。

「いちおうおれいをいつとくわ！ありがとう！」

バディはあくまにおれいをいいました。

さっそくしかえしにいじわるをしにいきました。

ところが・・・

「バディなんてもう見るのもいやだわ」

「バディにやられた分、もっとひどいことしてやる！」

「バディなんかどっかいつちゃえばいいのに！」

「バディってなんだか心をよまれてるみたいできもちわるい

わ」

バディがしかえしをすればするほど

バディのわるぐちを言う人はおおくなり、

とうとうわるぐちがきこえない日はなくなりました。

あさおきてから、ねむりにつくまで

村のだれかひとりバディをばかにしているのです。

そしてバディがいつもどおりしかえしをしたある日、

村の人びとはとうとうかんにんぶくろのおが切れて、

ついにバディを村からおい出しました。

とつぜんのことにおどろいたバディは

た。
いくあてもたべるものもなく、とほうにくれてしまいました

「あくまととりひきなんてするんじゃないかった」

バディはひとり、なにもないみちばたでおいおいと泣きま
した。

けれども、きづいたときにはもうおそかったのです。

それをおいところで見えていたあくまは
おかしくておかしくてケラケラとわらいました。

「あーおもしろかった！」

まんぞくそうにうなづいたあと
あくまはつぎの人げんをさがしにでかけていきました。

それからあくまはたくさんの人をふこうにしました。

はたらきもののチャーリーも
あらゆる人がはたらきものになりますように、とねがって
みんながうばい合ってしごとをするものだから
しごとがなくなっしてしつぎょうしてしまいましたし、

なまけもののエミールも

はたらかなくてももんくがいわれないようにしてほしいと
ねがって

もんくがなくなったものの、みんなもなまけるようになったので

たべるものがなくなり、けっきょくはたらくはめになって
しまいましたし、

こいする女の子のアンナも

人をあいせないヨハンも

しょうじきもののケニーも

うそつきのニコルも

あたまのよいデビットも

おばかなソフィアも

みんなみんな、あくまとのとりひきでふこうになって、
おいおいおいおい泣きました。

「あくまなんかとりひきするんじゃないかった」

けれども、きづいたときにはもうおそかったのです。

あくまはごきげんでした。

思ったとおり、いいひまつぶしになったからです。

そろそろもどろつか。
そんなことを思ったとき、ひとりのおとこが目にとまりま
した。

ハンスのように大金もちでもなく
ピーターのようにびんぼうでもなく
マリーのように人気ものでもなく
バディのようにきらわれものでもなさそうな
どこにでもいそうなおとこでした。

あくまはおもわずニヤリ。

ヒヒヒ、あいつをふこうにしてからかえってやろう。
あくまはおとこにちかづきました。

「おまえはだれだ？」

「おれはあくまだ」

「あくまがいったいぼくになんのようだ」

「とりひきだ、とりひきをしよう」

「いやだ、あくまなんてうそをつくにきまつてる」

あくまはすこし、おや、とおもいました。
いままでの人げんたちとはちよつとちがうようです。

「うそなんかつかないさ」

「ふん、それもうそにきまつてる！」

「うそじゃないとも。とりひきでうそをつくことはできない。
たとえそれがあくまだったとしてもね」

「だとしても、とりひきがおわったらぼくをたべるつもりな
んだらう」

「そんなことはしない」
「ならどんなとりひきなんだ」
「なあに、かんたんさ！ねがいごとをひとつ言えばいい」
「ねがいごと？」
「どんなねがいもひとつだけかなえてあげよう」
あくまはおとこのへんじをたのしみにまちました。
なんとたつて人のふこうが大すきなあくまですから、
このおともふこうにおとしいれたくてしかたがないので
す。

さあ、このおとこはどんなふうにふこうにしてやるのか？

すると

「いいや、とくにない」
「へ？」

あくまはおどろきました。
こんなへんじは思ってもみなかったのです。

「とくにないって・・・ねがいごとが？」
「ああ、ない」
「そんなことはないだろう？」
「ないって言うてるだろう」
「いいや、よくかんがえてみる」
「しつこいぞ」
「ほら、あるだろう？お金とか名声とか」
「そんなものにきょうみはない」
「じゃあすきな人にふりむいてもらうとかえらくなりたいと

か
」

「だからないってば」

あくまはしつこくくいさがります。

だってこのままじゃおもしろくありません。

なんとかおとこのをふこうにしてやろうと

なんどもなんどもゆうわくしてみました。

そうしてようやく・・・

「ないものはない!!」

「そこをなんとか...」

「うるさーーーーーい!! そんなにいうなら言うてやろうじやないか!!」

あくまはしめたとおもいました。

おとこがそう言ったじてんでとりひきはせいりつです。

あとはおとこのねがいをかなえて

じぶんはそれをおもしろおかしくながめるだけ。

「さあ、ねがいをかなえてやろうじゃないか。言ってみるといい!! なんだってかなえてやるさ!!」

あくまはとくげに、むねをはって言いました。
ところが。

おとこのことは、あくまのよそづをずっとうつらぎるものでした。

「おれのねがいはおまえがふこうになることだ!!」

おとこはそれだけ言うとかたをいからせて、あくまにせなかをむけてどこかへ言うてしまいました。

なんということでしょう！

あくまのかおはまっさおです。

あくまのしあわせは人げんをふこうにすること。
あくまのふこうは人げんをしあわせにすること。

ああ、でももうとりひきはせいりつしてしまったのです。
とりけすことはできません。

あくまはしかたなく、もと来たみちをもどっていきます。
そして、そらをとびながらおいおい泣きました。

「あんな人げんととりひきするんじゃないかった」
けれども、もうきづいたときにはおそかったのです。

これから人げんをしあわせにしなければなりません。
まずはろうやにいたるハンスから・・・。

* * * *

大つぶのなみだをながしながら、空をとんでいるあくまの下で
空を見上げている人げんがいました。

ついさつき、あくまととりひきをしたおとこです。

さつきはあんなにカンカンにおこっていたのに

今は、にんまりえがおでなんともうれしそうなお。

あくまには見せなかった人のわるそうな笑みで、おとこは言いました。

「あははっ！ あいつ、今ごろ人げんたちをしあわせにしに行つたんだろうなあ」

いひひ、とあくまとそっくりないじのわるそうな声でおとこは笑います。

「あくまのしあわせは人げんをふこうにすること。

あくまのふこうは人げんをしあわせにすること。

でも、ぼくぐらいになると人げんじゃもう、もの足りないんだ。やっぱり、だましたりこまらせたり、ふこうにするなら……」

とおくのそらでは、あくまはちいさなちいさな豆つぶのよう。

空にうかんだちいさなかげをゆびさして

笑ったおとこのおしりからは、

「おんなじあくまのぼうが、おもしろいよね」

あくまとおんなじ、さきのとんがったくろいしっぽが――

（後書き）

最後の方、新たに付け足してみたり。

誤字脱字がありましたら、ご報告いただければ幸いです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0718g/>

ふこうのあくま

2011年1月3日07時28分発行